

第 5 回徳島県公立高等学校の在り方検討会議の概要について

- 1 日 時 令和 8 年 4 月 2 3 日（木） 午後 1 時 3 0 分から午後 3 時 3 0 分まで
- 2 場 所 徳島県庁 1 0 階 大会議室（徳島市万代町 1 丁目 1 番地）
- 3 出席者 （1） 委員 1 6 名中 1 2 名出席（欠席 4 名）
（2） 県 教育改革統括監、教育創生課長 ほか
- 4 報 告 2040 年に向けた高等学校教育改革について
- 5 議 題 （1） 地域の拠点校について
（2） 全国募集の在り方について

6 意見交換における主な発言概要

（1） 地域の拠点校について

- 拠点校の設置エリアについては、生徒の通学時間や交通アクセスを考慮するとともに、産業界が連携しやすい地域であることも判断材料の 1 つになるのではないかと。
- 拠点校は、生徒の高い進路目標の達成を支援する役割を果たすべきであり、各校のこれまでの取組状況や組織体制、有するノウハウなどの観点から選定する必要がある。
- 特に拠点校以外の学校については、学校運営協議会制度を生かし、地域や産業界との協働による魅力ある学校づくりを推進すべきである。
- 将来的により厳しい人口減少を想定し、ネクストハイスクール構想も踏まえ、拠点校における具体的な教育内容についても併せて検討しておく必要がある。
- 遠隔地からでも質の高い授業を受けられるよう、オンライン授業等の環境整備を進めることで、県全体での多様な学びの選択肢を確保してはどうか。

（2） 全国募集の在り方について

- 私立高校の授業料無償化等の影響で生徒の進路選択が多様化しているため、県内外への進学動向に関する正確なデータを収集・分析し、今後の対応を検討する必要がある。
- 各高校が自校の状況を分析し、効果的な生徒募集や魅力化等に活用できるよう、県においてデータを集約・還元する仕組みを整えるとともに、中学生や保護者が納得して進路を選択できるよう、事実に基づいた適切な情報提供に努めていただきたい。
- 県外からの生徒の受け入れについては、県・市町村・民間が連携した施設整備や空き家の活用など、ハード・ソフト両面から安心できる住環境の整備が重要である。

（3） その他

- 国の動向や財政支援を踏まえた高等学校教育改革実行計画の策定においては、本検討会議を適宜活用しながら、計画づくりを進めていただきたい。
- ネクストハイスクール構想における改革先導拠点については、これまでの公立高校の在り方検討の方向性を踏まえ、総合的な観点から選定することが重要である。
- 学校の小規模化が進む中、市町村が強い危機感を持ち、主体的に高校の魅力化に関わる姿勢が不可欠であり、県としてもその現状や危機感を明確に伝えるべきである。
- 中学生の主体的な進路選択に資する柔軟な入試制度となるよう、複数校を志望できる併願制度の導入などを検討すべきである。
- 高校の特色化に合わせ、生徒が将来ビジョンを自ら描けるよう、小中学校段階から多様な学びの経験を通じたキャリア教育の充実を図るとともに、生徒の個性に寄り添った進路指導を進めていく必要がある。
- 商業教育の高度化・魅力化を図るためには、現在分散している人的リソースの重点的な配置が不可欠である。